

単元構想のリフレクション（研究仮説と手だての有効性の検証）	
単元を通じた構想の振り返り（仮説の検証）	<p>本単元の目的は、生徒が情報を収集するだけでなく、主体的に収集した情報を分析し、そこから課題を見だし、多面的なビジネス戦略を導き出すことである。身近にある企業を取り上げ、その商品の動向を調べることで、数値で客観的に評価・分析できないような事象があることに気付かせ、情報をビジネスに活用する力が身に付くと考えた。</p> <p>本単元の実施前は分析手法が身に付いておらず、自ら経営分析ができないと答える生徒が半数以上であったが、単元終了後はアンケート分析結果から、新たな企業戦略を練るところまで思考することができるようになったことから本単元の手だては有効であったといえる。</p>
主体的な学びを実現する手だての有効性の検証	<p>生徒の主体的な学びとなるよう、ワークシートを用いて事前に各自が収集した情報を提出させたが、同じような意見になってしまったり、情報収集の量に差が生じてしまった。インターネットに頼るだけでなく、さまざまな視点で情報収集をさせることが必要であったと感じている。主体的な学びを積極的に誘導できなかった点において、今回の手だては考慮の余地があるといえる。</p>
対話的な学びを実現する手だての有効性の検証	<p>ロイロノート・スクールのシンキングツールを用いて各自が収集した情報を分析させた。少人数のグループを作ることで一人一人が意見を積極的に出すことができた。また他者の意見に賛同したり、意見を付け加えるなど積極的な様子も見られた。ロイロノート・スクールを活用することで視覚的にも意見の追加や修正がしやすくなったことから、対話的な学びの手だては有効であったといえる。</p>
深い学びを実現する手だての有効性の検証	<p>ロイロノート・スクールの回答共有機能を活用することで、他のグループの考えを知ることができた。考え方の比較をすることで、さまざまな考え方や表現の仕方に気付かせることができ、最善の戦略を導き出すことができた。特に今後の社会の変化を予測し、優位に立つためにどのような戦略を立てることが有効かを分析させることができたことから、深い学びの手だては有効であったといえる。</p>

抽出生徒の変容		
生徒	実践前の様子	単元終了時の様子
A	<p>消極的であり、自分の意見をあまり言わない。少人数グループならば意見を言うことができる。他者とコミュニケーションをとり、自分の考えに自信をもって発言できるようになってほしい。</p>	<p>他の生徒とコミュニケーションをとることに少し戸惑いはあったが、企業の経営分析をする手法とコミュニケーションをとることの大切さの両方を学び、自身の成長を感じた様子であった。</p>
B	<p>興味のあることには集中するが、興味のないことには集中して取り組むことができない。実際の企業の経営分析を、自ら行うことで、どのような事にも探究心をもってほしい。</p>	<p>他者の意見をよく聞いていた。また他者の意見から新たな発見をし、自分の意見を増やすことで、その先を創造することができた。このような経験が社会に出てからも大切であると気付くことができた。</p>
C	<p>積極的に意見が言える。何事も真面目に一生懸命取り組むが、やや視野が狭い。他者の意見を聞き、さまざまな意見を比較することで、自らの意見を再検討できる柔軟性をもってほしい。</p>	<p>自分が発言すること、他者の意見を聞くことの両方ができて初めて、自分の視野が広がることに気付いた様子であった。最初の自分の意見を再検討し、最善の経営戦略を考案できた。</p>

実践を通しての課題
<p>ロイロノート・スクールの活用は、いつでもグループで情報共有ができ、授業における対面方式でのグループ学習に大きな効果を与えた。しかし、情報収集の場面では、ほぼ全員が同じような内容になってしまったことから、インターネットの情報を収集することはできるが、その情報を多面的に捉え、深く考えさせるための手だてが足りなかったと感じている。今後は、多種多様な情報をより効果的に分析するために、情報の多面的な見方をしっかりと押さえた上で主体的な学びに誘導できるよう、授業改善を行ってきたい。</p>